

## 年頭のごあいさつ



飯館村長

菅野 典雄

村民の皆さん、あけましておめでとうございます。

年号が、平成から令和に変わったこの1年、皆さんはどのような1年だったでしょうか。令和2年の年は、あの忘れられない避難生活から数えて丁度10年目の年でもあります。

あの避難生活の頃のような緊迫感は、随分落ち着いてきていますが、一方でそれ以上の多くの課題が見えてきているということでもあります。

「もう少し買い物が出る所を」「医療や介護をもう少し充実できないのか」「高齢者が多いので足の確保をしてほしい」「郵便ポストをつけてほしい」等々、課題は増えるばかりです。昨年も「一歩一歩ですが、今年もそれらの課題を一つでも進められるよう議会と相談しながら取り組んでいくつもりです。」

川俣町あたりに買い物車を出したいものと考えています。いいアイデアでクリニックで院内処方が出るようになりそうです。いいアイデアももう少し入居者に入っていただけのような努力していきます。郵便ポストの要望など自前でできないものはこれから要望活動などを

していくつもりです。

現在、村の人口は5486人ですが、村内在住人口は1391人です。その内、他からの転入者は148人と、これまでとはまた違った村の動きも出てきつつあります。これからも少しでも住み易さをつくっていくことによって、多くの方々に住んでもらったり、行き来をしてもらいたいと考えているところです。

今年の事業として8月頃に多目的広場が完成しますので、親子連れの姿が増えるはず。また、パークゴルフ場も完成し、村民の健康づくりにもはみがかかるとのことです。農業の基盤整備事業や村道の舗装工事なども続きますので、例年以上の事業の取り組みの多さになります。

一方で、行政のやることにも限界がありますので、村民の皆さんにもいろんな形でご協力いただくことが多くなるかもしれませんが、ご協力をよろしく願います。

今、進めている村の第6次総合振興計画の内容はこれからですが、村民と行政がどう役割分担し、かつ一緒に手を携える事業を多くつくっていくかがポイントになります。そして、その中心となる考え方は「心のシェア」であり、「お互い様」ということで、協力し合っていくことが第6次計画の柱になることでしょう。

**「喜びは、分かち合うことによって倍になり、悲しみは、分かち合うことによって半分になる」という言葉があります。また、「生きていく」ということは、誰かに借りをつくること。生きてゆく」ということは、その借りを返していくこと」という言葉もあります。そのような気持ちを持ち続けて、村民の皆さんが「ふるさと」に愛着をもってもらうことが村の再生の第一歩であると思います。皆さんのふるさとである飯館村を、皆で力を合わせて「小さくとも、キラリとひかり輝く村」にしていこうではありませんか。**

村民の皆さんにとって、昨年よりさらによい年でありませう、心より念じ、新年のあいさつとさせていただきます。

## までいな心を忘れずに



飯館村議会議長

菅野 新一

村民の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

お元氣にご家族お揃いで令和初のお正月をお迎えになられましたでしょうか。

帰村された方は、年々増えており25%に達したところですが、それぞれの事情により村内、県内、新たな地で生まれ、まだまだ課題を持ちながら生活を過ごされていると痛感しており、村民を代表する議会人として誠に申し訳なく思っております。

しかしながらそうした中、長泥地区特定復興再生拠点についても、居住促進ゾーンを先行的に除染を進め、今年度から3年間かけ整備し避難指示解除に向け展開されます。また、昨年も村内でいろいろなイベントが開催され、主に1月に村内外から沢山の人が集まり盛り上がった「いいたて新春村民の集い」、5月に子どもたちの元気な声が響いた「いいたてつ子運動会」、7月に夜空を彩る「はやま湖花火大会」、8月に日頃より腕を磨き楽しんだ「グラウンドゴルフ大会」& 演芸と美味しい食事の「福祉祭り」、9月に金婚式のお祝いも盛大になった「敬老会」、10月に村内最大のイベント「いいたて村文化祭」と

それぞれ盛会裏に終わり、皆さんの記憶に残っていることでしょう。

一方で、主な事業としては、総合健診などの「生命(いのち)をまもる」、移住・定住・交流・自治会同窓会など「人と人がつながる」、深谷地区復興拠点整備、営農再開支援・畜産再開素牛導入など「までいブランドを再生する」、「子どもたちの未来をつくる」では小・中統一校を義務教育学校「いいたて希望の里学園」とし、今年4月1日の開校に向け諸準備が進んでおり、これらも村の再生に向かつて一歩ずつではありますが、着実に進んでおり、大変嬉しく思う次第です。

村づくりの基本理念である「までいライフ(MADAY LIF E)」が掲げられ、将来像と施策のそれぞれ6つの大綱を基に、復興計画のコンセプトにもある「ネットワーク型の村づくり」を実質的に進められます。具体的な方策として、第6次総合振興計画策定委員会が、村民代表・有識者・村役場職員で組織され、昨年9月13日に発足し、令和元年度・2年度にわたり、地域別懇談会ならびに専門部会(4部会)・アンケート結果を踏まえ指針を出し、6月に計画案を取りまとめる様に検討が進められます。

我々、村議会議員各位が「までいな心を忘れずに」ONETEAMとなり、村民皆さんの声に寄り添い傾聴し、村再生と活性化に全力で、ふるさと飯館村を大切にすることを、全ての村民が豊かで安心して暮らせるように取り組む所存であります。

どうか、今年も「一層のご指導、ご協力を賜り身近で頼りがいのある村議会でいられますようお願い申し上げます」とともに、今年も皆さんにとって幸せ多い年でありませうお祈り申し上げます、年頭のあいさつといたします。